

はじめに

今日、企業の不祥事がマスコミを通じて、世間を広く騒がせることが頻繁にあるように感じられます。また、その際には単に何が問題であるかだけでなく、同時にその原因や今後の対策などにも社会の高い関心が向けられているようにも感じられます。

この変化を考えると、企業に対する社会が向ける視線が、あるいはそこに求めているものは従来と比べてどのように変化をしたのか、また、同時に企業がそれに応えるには何をすべきかを考える必要があるといえます。

今、述べた企業と社会の関係性のあり方を捉えるときに有効と思われる考え方として、今回の研究で取り上げる「CSR（企業の社会的責任）」といったものを挙げるすることができます。詳細は本文中に述べますが、CSRはまず企業を取り巻く社会をその主体や役割によって、それぞれ企業と異なった関わりを持つステークホルダーとして捉えます。さらにそれをもとに企業がそれぞれのステークホルダーに対して、どのような責任を持ち、どのように行動すべきかを判断して取り組みを行っていくことを促す働きを持ちます。

さて、ここで社会一般から鉄道事業について話を移すと、鉄道事業者も一企業として、今までに述べてきたことは当然、当てはまります。しかし、それにさらに公共交通機関としての役割や、あるいは鉄道自体の特性が加わることで、鉄道事業者独自の社会から事業者に対して求められている責任や企業としてのあり方が存在すると考えられます。また、それを理解することができれば、これからの社会において私たちの生活を支える存在である鉄道がどのような役割を果たし、そのためにどのように変化していくか、あるいは鉄道と、私たち自身がどのような関わりを持っていけばよいかを意識するきっかけになるかもしれません。

そこで、今回の研究では以上を踏まえて、現在までにおける一般的なCSRの内容とその背景などを整理した上で、それに加えて鉄道の特徴を踏まえたステークホルダーを通じた社会との関わりなどについて検討を行います。

した。その上で実際に行われている鉄道事業者の具体的な事例と今後における課題を挙げ、最後にそれぞれの取り組みをCSRにおける重要性や優先度などで分類し、再度まとめることで現在におけるCSRへの取り組みの確認と、同時に今後に対する一つの指針となるようにしました。

この研究が皆さんにとって企業と、あるいは鉄道事業者と社会の関係性やその未来に対して、興味を持っていただき、考えてみもらえるきっかけになれば幸いです。